

平成 22 年度（第 2 回）

大垣市スポーツ振興審議会 会議録

▽日 時：平成 22 年 11 月 2 日（火）午後 3 時から午後 4 時 30 分まで

▽場 所：（市役所北庁舎）教育委員会室

▽議 題：「大垣市スポーツ振興計画」の策定について

▽出席者（敬称略）

（委員）堤 俊彦〈会長〉

高橋正紀、大石 毅、臼井正明、安田卓美、長谷川郁代、高橋美和子、
牧野安孝、小川修司【計：9名】

（市及び事務局）

坂喜美和（教育委員会庶務課長）、大山正行（社会教育スポーツ課長）、
守屋明彦（庶務課課長補佐）平松善幸（社会教育スポーツ課課長補佐）、
伊藤充貴（社会教育スポーツ課）、川合海乃留（社会教育スポーツ課）、
近藤哲也（庶務課）【計：7名】

▽欠席者（敬称略）

（委員）早野正美【計：1名】

▽傍聴者：無

<審議会開会>

（事務局）※開会にあたって

（会長へ議事進行をお願いするまでの間、議事進行）

<あいさつ> 審議会会長挨拶（略）

<議事進行については、大垣市スポーツ振興審議会設置条例第 6 条第 3 項の規定により、会長が会務を総理することとなっているため、以降の議事は会長が執り行う。>

（会長）

※欠席委員の報告

※審議会公開の報告

※事務局に対し、スポーツ振興計画（案）の変更点について、説明を依頼。

（事務局）

※「資料 2：大垣市スポーツ振興計画（案）」に基づき、説明（略）。

(会長)

説明のあったスポーツ振興計画の修正箇所について、ご意見、ご質問があれば、お願いしたい。

(各委員)

※意見なし。

(会長)

全体の主旨は変わっていないのか？

(事務局)

変わっていない。

(会長)

修正箇所については、ご意見も無いようなので、今回の会議の開催案内と同時に送ってもらった計画案について、それぞれ資料を読んでもらったと思うので、意見があれば、お願いしたい。

(会長)

目標指標に「施設利用機会の満足度の向上」があり、その基準値が「調査中」とあるが、同じようなアンケートを去年、体連が取った。指定管理を受けるために、内部体制を見直すということで、プロジェクトを作り、サービスなどに関し、アンケートを取り、製本までしてあるので、ぜひそれを参考にしてみたい。

また、「第5章 計画の推進」の中で、「年1回実施状況の把握や評価を行う」とあるが、この審議会で行うのか？

(事務局)

前年度分を、翌年この審議会でも、計画の実施状況について確認してもらう。

(会長)

「施策体系」の「主要事業」に、それぞれ「事業区分」があり、市と体連とあるが、進行状況の把握は、誰がどういう方法でやるのか？

(事務局)

「主管」というのが、市か体連であり、評価するのは、市。

「主管」が体連でも、評価するのは、市ということ。

(堤会長)

目標値についても、市がアンケートを行うなどして調べるのか？

(事務局)

そういう形で、目標値は設定する。

(委員)

各基本施策の目標値は、平成26年にとということだが、スポーツの実施率を54%から60%にするのはわかるが、「スポーツ環境の諸整備」で、基準値の約84万人を目標85万人とするのは、「計画」とは言えない。やりきり感が見えず、「計画」とするなら、90万人くらいにすべきだ。

また、スポーツの実施率を6%上げるということだが、5年かけてのことなのか、それとも段階的に上げていくのなら、単年度でどこまでなのか、さらに努力目標なのか、実現目標なのかかわからない。

私としては、激励金を交付した数が、平成17年の31件が、平成21年に62件と倍増していることに、何が理由なのか興味がある。

いろいろと苦言を呈したが、今回、会議の前に資料をもらったのは、よかった。いつもは、会議の場で資料をもらい、説明を受けるだけだった。

(会長)

確かに、目標値の85万人は低いと思うが、何か根拠はあるのか？

(事務局)

今後新たな施設ができる予定もなく、現在の施設と、満杯に近い利用状況を考えると、増える要素がない。また、改修工事で使えない場合のことも考えると、安易に大きな数値を掲げることもできない。

(委員)

キャパシティがあるかないかは知らないが、少なくとも伸ばしたい思いがあるならば、既存のものに依存してはいけない。

(会長)

今の意見は、よりよくしていくための施策だから、そこに意志は無いという指摘だ。

この振興計画案のいい所は、大きくなり過ぎた大垣市の体育関係組織の関連性が、わかりやすくなった点だ。本市の計画は、岐阜市のものよりも項目が多く、熱心で素晴らしい。

少子化、子どもの遊びなど、体育関係団体のトップが顔を合わせて、意見交換する場などがあると、施策を見つけやすいかもかもしれない。今までの歴史がある分だけ、それぞれに歪んだ部分もあるかと思う。納会時などに、いろいろと話は聞くが、現状の把握だけで終わってしまっている。校長の中には、少年団や部活動に無関心な人もいるので、中体連などのトップだけが集まって、組織の良い点や、悩んでいる点など、お互いに指摘、認識し合う会議の

場があるといい。

(委員)

体振では、いつも選手集めに苦労している。組織のトップ同士で話し合える場があれば、そういった問題も解決されるかもしれない。

(会長)

学校は、競技の指導者が、種目別にどこの企業にいるか知らない。例えば、学校は、サッカーを教えてくれる人がいないと悩んでいたりするが、実は、神鋼造機に高いレベルの指導者がたくさんいたりする。

(委員)

トップの人たちが集まって話し合いをすれば、プレイはできないが指導はできる、という人がたくさん現れるはずである。

(会長)

企業としては、その指導ができる社員を、居住地に近い学校に派遣させることができる。

(委員)

そういうことができれば、地域のスポーツの問題を社員にも、トップにも言いやすい。実際に指導する本人にとっても、生涯スポーツにつながる。

(会長)

組織のトップが集まり、陳腐化した部分をお互いに曝け出せば、補填箇所が見いだせるはずだ。

(委員)

最近、ウォーキングをしている人が多い。念入りなアンケートを取ったら、実はスポーツ実施率はもっと高いかもしれない。

(委員)

体連4次総のスポーツ実施率の目標値は、平成27年度に57%であり、市も同じ数値にしてはどうか。

(事務局)

体連の目標値についても認識している。本市の60%という数値に、深い根拠はなく、あくまで努力目標として設定している。

(委員)

障がい者や、外国人のスポーツ振興については、どう考えるか？

(委員)

企業には、障がい者の雇用 1.8%という決まりがある。障がい者に関するスポーツ振興も検討できるのであれば、検討したほうがいい。

(委員)

実は、障がい者の国体の第1回大会は、昭和40年に大垣市で開催された。

(事務局)

本計画に、障がいのある方、外国人のスポーツ振興には触れられていないが、盛り込めるようにしたい。

(委員)

差別的なことになるといけないので、よく注意したほうがいい。

(事務局)

福祉の計画との整合性も図り、検討する。

(会長)

それでは、本日の協議事項について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

※「資料3：第2回審議会の協議事項」に基づき、説明（略）。

(会長)

まず「幼少期のスポーツ振興」についてだが、表中の「検討例」というのは、事業のひとつなのか？

(事務局)

事務局で考えた、あくまで例であり、提案するものではない。

(委員)

体連で行っている「おおがきっすスポーツスクール」は好評で、第1回目は定員40名に対し、93名の応募があり、定員を60名に増やした。内容は、ボールを使ったもので、1クール10回で、料金は3,000円。子どもたちは、その10回でかなり上達していく。

(会長)

「おおがきっずスポーツスクール」は、経済大学と体連のコラボの第1号で、こういうものがどんどん増えていけば、スポーツ振興につながる。

(委員)

いいものは、どんどん広めてほしい。

(委員)

幼稚園には、体育授業サポーターというのか、大学生が跳び箱やマット運動を教えに来ている。最近は、運動のできない先生も少なくなき、子どもに運動を教えてほしいという要望はたくさんある。

(委員)

子どもたちには、指導者が実際に見せてやらないと、わからないし、できない。しかし、体操ができない先生が多い。経済大学と提携するなりして、学生に指導してもらえるとよい。安八町では、町教育委員会常勤の体育専門の先生がいて、各校を回り、指導している。以前から大垣市にも導入をお願いしている件だ。

(会長)

大垣市は学校数が多いから、5人くらいでチームを作ってやってみるといいだろう。安八町は、クラブの指導か？

(委員)

クラブではなく、授業として行っている。水泳の授業では、実際にプールに入り、泳ぎを見せている。

(委員)

大垣市には、そのような非常勤の体育講師はいるか？

(事務局)

いない。

(会長)

「おおがきっずスポーツスクール」の対象年齢は、今より下げられるか？

(委員)

昨年からは平野学園で、経済大学の学生が、3～4歳児にスポーツを教えているので、対象年齢を下げることはできる。むしろ、「おおがきっずスポーツスクール」は、小学校1・2年生対象であるため、まだ少年団に入れない小

学校3・4年生からの要望が多い。3歳から小学校4年生にかけて、ニーズがある。

(委員)

市内の幼保園で、ミナモ体操の普及に行っているが、もっと先生たちに研修をしてほしいと思う。子どもたちが、跳んだり、跳ねたりするだけでもいいので、集団の遊びの中から、運動能力を培うための研修を受けてほしい。鬼ごっこでも、缶けりでもいい。

(委員)

先生の研修会は、一年に50回くらい開催しているらしいので、ぜひ体育の研修も取り入れてほしい。また、子育てサロンでは、母親同士が会話しているだけなので、その際に子どもにスポーツをやらせてみてはどうか。

(委員)

バルシューレの幼児対象の本が、もうすぐできあがるので、参考にしてほしい。

小学校では、先生の体育の研修はあるか？

(委員)

実技研修はある。一年に一回、各校1名ずつ集まり、大学の講師を迎え、低学年向けの遊びを学んでいる。

(会長)

2つめの協議事項の「一貫した指導体制」については、どう考えるか？

(委員)

生徒数が減っているのに、教員数も減っている。それぞれが特色を持った学校づくりをしていかないといけないが、教員は異動があり、なかなか難しい。

今は、部活動のために、全然違う校区の中学校に入れたりするのか？

(委員)

条件は、「隣の～」が、「地区の～」に緩和された。

中学生も、少年団に来てもいいよという体制はどうか。健民少年団は、中学生も入れるということなので、他の少年団でもどうか。

(委員)

陸上部の無い学校の子供が、陸上競技場に練習に来ているが、陸上部に所属していないため、校長の許可が無いと、大会に出られない、練習もでき

ないという実情がある。

(会長)

3つめの協議事項の「スポーツ相談窓口」については、どう考えるか？
検討例の「体連に専用ダイヤル」まではいらないうだろう。体連に電話を
かければ済むことだと思う。

(委員)

体連のホームページもある。

(事務局)

スポーツの相談は、すべて体連でよいか？そのための情報を体連に集約
しないといけない。

(委員)

もちろん、住み分けは必要だが、基本は体連でよい。

(会長)

大垣市のスポーツの窓口は、体連でよい。

(会長)

今回は、新しい意見も出て、大変意義のある会議だった。
次回、第3回の審議会は、2月14日の15時～16時半にお願いしたい。

(事務局)

本日の意見を基に、新しい資料を準備して、事前に送付する。

<審議会閉会>